# LD・ADHD・高機能自閉症の理解と支援のために

岡 山 県 教 育 委 員 会

# こんな子どもが

「ちゃんと…しなさい」では解決しなかったことがありませんか。
担任から見て「気になる子ども」が、クラスには何人かいるものです。
次に示した内容は、新しい学習に取り組むときや生活の中で様々な不安感・緊張感を抱いているときなどにどの子にも起こりうることです。
しかし、これらの問題が継続し、指導をしてもなかなか改善がみられない場合、その背景の一つとしてLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥／多動性障害）、高機能自閉症といった発達障害の可能性があることも考えられます。

## 学習面に関して

### 学習上のつまずき

・本を読むとき、文中の語句や行を抜かしたり、同じ行を繰り返し読んだりする。
・形や大きさがそろわない文字を書く。
・自分の考えや気持ちを、発表や作文で表現することが苦手である。
・数式に基づいて計算はできても、文章題を解くことは苦手である。
・はさみの使い方が不器用だったり、なわとびの跳び方がぎこちなかったりする。等

## 行動面に関して

### 興味・関心の偏り

・とても得意なことがある一方で、極端に不得手なものがある。
・興味のあることには、納得するまで時間をかけて活動をする。
・他の子どもがあまり興味をもたないようなことに強い関心を示す。等

# いませんか。

### 不注意・落ち着きのなさ・衝動性

・不注意な間違いをよくする。
・学習に使う必要な物をなくしてしまう。
・静かに座っているべきときに離席したり、いすをガタガタさせたりするなど落ち着きがない。
・何か思い立つと、衝動的に行動してしまうことがある。等

### 手際の悪さ・見通しのなさ

・自分の持ち物などの整理整頓に時間がかかり、手際が悪い。
・時間内に行動したり、見通しをもって行動したりすることができない。等

### 集団での活動の困難

・学級全体への一斉指示だけでは行動に移せないことがある。
・順番を待つのが難しく、ルールのあるゲームに参加することが苦手である。
・グループで学習するときなどに、よく自分勝手な振る舞いをする。
・係活動や当番活動は、教師や友だちに促されないとしない。等

## コミュニケーション・人間関係に関して

### コミュニケーションのまずさ

・自分から質問をしても、相手の回答を待たずに次の話題に変えてしまうことがある。
・その場の状況や相手の立場・感情を理解しないで話をしてしまう。
・周りの人が静かにしているときに一人だけ声を出したり、人前で独り言を言い続けたりする。等

### 人間関係のトラブル

・自分のこだわりのために、友だちの言動が許せないことがある。
・口げんかをはじめ、友だちとのトラブルが多い。
・友だちの邪魔をしたり、けなしたりするなど、相手から嫌われることをしてしまう。
・自分が非難されることに対して、過剰に反応する。等

# LD、ADHD、高機能自閉症とは・・・・

文部科学省が実施した学級担任へのアンケート調査によると、LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥／多動性障害）、高機能自閉症といった発達障害とみられる子どもの数は、通常の学級で学ぶ子どもの約６％と報告されています。（この調査は、医師等による正式な診断によるものではないので、LD、ADHD、高機能自閉症の割合を正確に示すものでないことに注意する必要があります。）

こうした発達障害は、不適切な養育環境や保護者のしつけのまずさによって引き起こされるものではありません。その原因は、脳の中枢神経系の何らかの機能障害にあると推定されています。

次に、それぞれの障害の定義を示し、簡単な解説を加えました。

## LD（学習障害）

学習障害とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。

学習障害は、その原因として中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害・聴覚障害・知的障害・情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接の原因となるものではない。

（平成11年7月「学習障害児に対する指導について」報告より）

知的発達に遅れがないにもかかわらず、聞いたり話したりすること、読み書きをすること、そして、ものごとを筋道立てて考えることなどのうちで特定なものが極端に苦手な子どもです。

また、記憶や認知に、特有の困難さがあるといわれています。

そのため、通常のやり方で練習を繰り返しただけでは、十分な成果が上がらなかったり、定着が悪かったりします。

## ADHD（注意欠陥／多動性障害）

ADHDとは、年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、及び／又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものである。

また、７歳以前に現れ、その状態が継続し、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。

（平成 15 年 3 月「今後の特別支援教育の在り方について」最終報告による「試案」より）

気が散りやすく、落ち着きがない。しかも何かに駆り立てられるかのように、衝動的な行動をとることがあります。好きなことに熱中しているときには落ち着いていますが、そうでないときには、自分の行動をコントロールすることが困難な場合があります。

## 高機能自閉症

高機能自閉症とは、３歳位までに現れ、①他人との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害である自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないものをいう。

また、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。

（平成 15 年 3 月「今後の特別支援教育の在り方について」最終報告よる「試案」より）

相手の気持ちを察したり、周りの状況に合わせて行動したりすることが苦手です。また、程度の差がありますが何かにつけてこだわりを示す傾向があります。そのため、対人関係やコミュニケーションのトラブルを起こしがちです。

＊**アスペルガー症候群**とは、知的発達の遅れを伴わず、かつ、自閉症の特徴のうち言葉の発達の遅れを伴わないものである（DSM-Ⅳを参照）。なお、高機能自閉症やアスペルガー症候群は、広汎性発達障害（Pervasive Developmental Disorder…PDDと略称）に分類されるものである（DSM-Ⅳを参照）。なお、DSM-Ⅳとは、精神疾患の診断・統計マニュアル：第4版（アメリカ精神医学会）の略称である。

LD、ADHD、高機能自閉症といった発達障害は、一人の子どもに重なって現れることがあります。たとえば、高機能自閉症に特有の問題と、ADHDに特有の問題とを併せ有する場合があります。

# LD、ADHD、高機能自閉症の子どもへの支援

支援にあたっては、まずは、それぞれの障害の特性をよく理解しておく必要があります。同時に、そうした障害があるがゆえに、子どもが学習や行動のどのようなところに困難さを感じているのかをきちんと見極めることが大切です。

ここでは、学校生活におけるいくつかの学習・生活場面を取り上げながら、支援のポイントを示します。

## 学習面でのサポート

漢字を丁寧に書こうとしますが、どうしても字のバランスを整えて書くことができません。みんなと同じように笛がふけるようになりたくて一生懸命練習しますが、どうしてもうまくできません。努力がなかなか実を結ばないため子どもたちは、だんだんとやる気がなくなってきます。

### 支　援

文字を写すときには、文字の特徴を言葉で言ってあげ（「会」ならば 人〈屋根〉の下に、二・ムのように）、線の方向や形を意識させながら文字を書くように促すとうまく書けることがあります。読みの苦手な子どもには、文字を拡大した教科書を用意することも一つの方法です。また、その子の興味のある読み物を繰り返し読ませることで、読みの力が格段に増すことがあります。

大切なことは、個々の子どもに適した目標を設定するとともに、子どもにはっきりとした「めあて」をもたせることです。そして、成功するためのスモールステップの学習を設定し、「できた」「わかった」という実感を味わわせることが必要です。こうした達成感を味わい、成功体験を重ねることで、自信とやる気が生まれます。

## 授業に集中して参加できるように

授業に集中できない理由は、二つ考えられます。一つは、授業で取り組むべき課題が終わってしまって何もすることがなくなるためです。もう一つは、何をしていいのか分からないときに、他のことに気をとられてしまうためです。二つに共通することは、子どもに課題の「空白」ができているということです。

### 支　援

指導のポイントは、この「空白」を埋めることです。そのためには、課題を提示するときに、課題が終わった後にすることも、同時に提示しておくとよいでしょう。また、「思ったことを書きましょう。」といった課題には取り組みにくいので、課題をQ&A形式に転換して、答えやすくしてあげる工夫も必要です。

一方、授業の見通しを伝えることも効果があります。授業のメニューを紙などに書いて示しておくと、集中力が高まることがあります。さらに、一日のスケジュールを示すことも有効な方法です。子どもが登校してすぐに、その日の授業でがんばるめあてを本人と決めたり、休み時間などの過ごし方もあらかじめ計画したりしておきます。スケジュールには、何か一つ子どもが楽しみにできることを盛り込むと、一層意欲が高まります。

## 生活習慣が身につくように

整理整頓や持ち物の管理が苦手な子どもがいます。声をかければできるので「分かっているのにしない。」と思いがちです。しかし、この子たちは、整理のための段取りや見通しをもちにくいために、ごく簡単なことでも、一人ですることが難しいのです。

### 支　援

言っただけではなかなかできるようにならない場合には、手順を紙に書いて示しておくようにすると、子どもが視覚的に手順を確認でき、見通しをもって取り組めます。たとえば、「カバンの中身を机の上に出す。」、「提出物を先生の机の上のかごに入れる。」、「大きいものから順に机の中に入れる。」、「カバンをロッカーに入れる。」、「○時○分までは遊んでよい。」などといったように、具体的に示します。

生活習慣は、小学校の低学年までに身につけるようにしていきたいものです。高学年や中学生になってもできていない子どもには、本人のプライドを傷つけないように配慮しながら、必要なことをどのようにすればうまくできるのかを、丁寧に教えることが大切です。

## 社会的な行動が身につくように

社会的な行動を身につけるためには、相手の立場に立ったり、周囲の状況を読み取ったりすることができなくてはなりません。

ところが、これを苦手とする子どもは、その子がその年齢で、社会からどのような振る舞い方を求められているのかが、よく分かっていないのです。

### 支　援

公共の場で、だれにでも声をかけてしまう子どもがいます。小さい頃でしたら、「かわいいね。」ですみますが、小学校高学年にもなれば、周りから妙に思われてしまいます。

LD、ADHD、高機能自閉症の子どもたちは、適切な支援がないまま、集団の中で生活していても、十分な社会性を身に付けることができない場合があります。この子どもたちには、その場の状況に応じた振る舞い方を一つ一つ丁寧に教える必要があります。

また、場に応じた言葉遣いやコミュニケーションの方法も、機会があるたびに具体的に教えていくことが大切です。

## 集団生活が身につくように

集団行動ができない原因として、二つの理由が考えられます。一つは、全体に向けて出した一斉指示が理解できていないためです。もう一つは、ルールの理解が困難なためです。学校生活には、言葉にならない暗黙のルールがたくさんあります。

### 支　援

まずは、「今何をすべきなのか」を子どもにきちんと伝えることが大切です。分かりにくい場合には、とるべき行動を具体的に紙に書いて説明するとよいでしょう。

一方、ルールの理解というのは、自分が守らないと相手が困り、相手が守らないと自分が困るといった、相手の立場の理解が前提になっています。ところが、これが分かりにくいのが、LD、ADHD、高機能自閉症の子どもたちです。したがって、はじめは、「あなたは、どのようにしたらいいのか」を教えます。たとえば、「今週の掃除は、ここを○回拭きます」、「来週は階段を掃きます」と、カード等を利用して作業内容を具体的に示し、しっかりと作業に取り組むように促すことが大切です。そして、友だちもそうしていることを説明し、「当番のルールとはこういうことです。」と活動を通して教えることが必要です。

## 人間関係のトラブルをさけるために

もっと穏やかに過ごせたら本人も楽になれるのでしょうが、人と接点をもつたびにトラブルが絶えません。相手の気持ちを察することが苦手なために、相手が傷つくようなことをしたり言ったりしてしまいます。しかも、そのことについて注意されると、自分だけが責められているように思ってしまい、感情の高まりを抑えきれなくなるのです。

### 支　援

どうみてもそれは通らないと教師が思うときでも、まずは、本人の言い分をしっかり聴くことが大切です。自分の気持ちが受け入れてもらえないと思ってしまうと、教師の話はまったく入っていきません。

その上で、友だちともめると、自分もつらいし相手も嫌な思いをすることを伝えます。そして、どうしたらそうならないですむのか、具体的な振る舞い方を一つ一つ教えていきます。

たとえば、始業のあいさつのときに友だちがおしゃべりしているのを許せず、言葉を荒らげる子どもには、「注意するのは、日直の人だけです。あなたは、静かに待ちましょう。」のように指示します。また、グループ活動の前には、その日に想定される状況とその子に期待できる行動とを示したシナリオを用意し、事前にそれを読むように促し、望ましい人間関係のとり方をリハーサルする方法もあります。

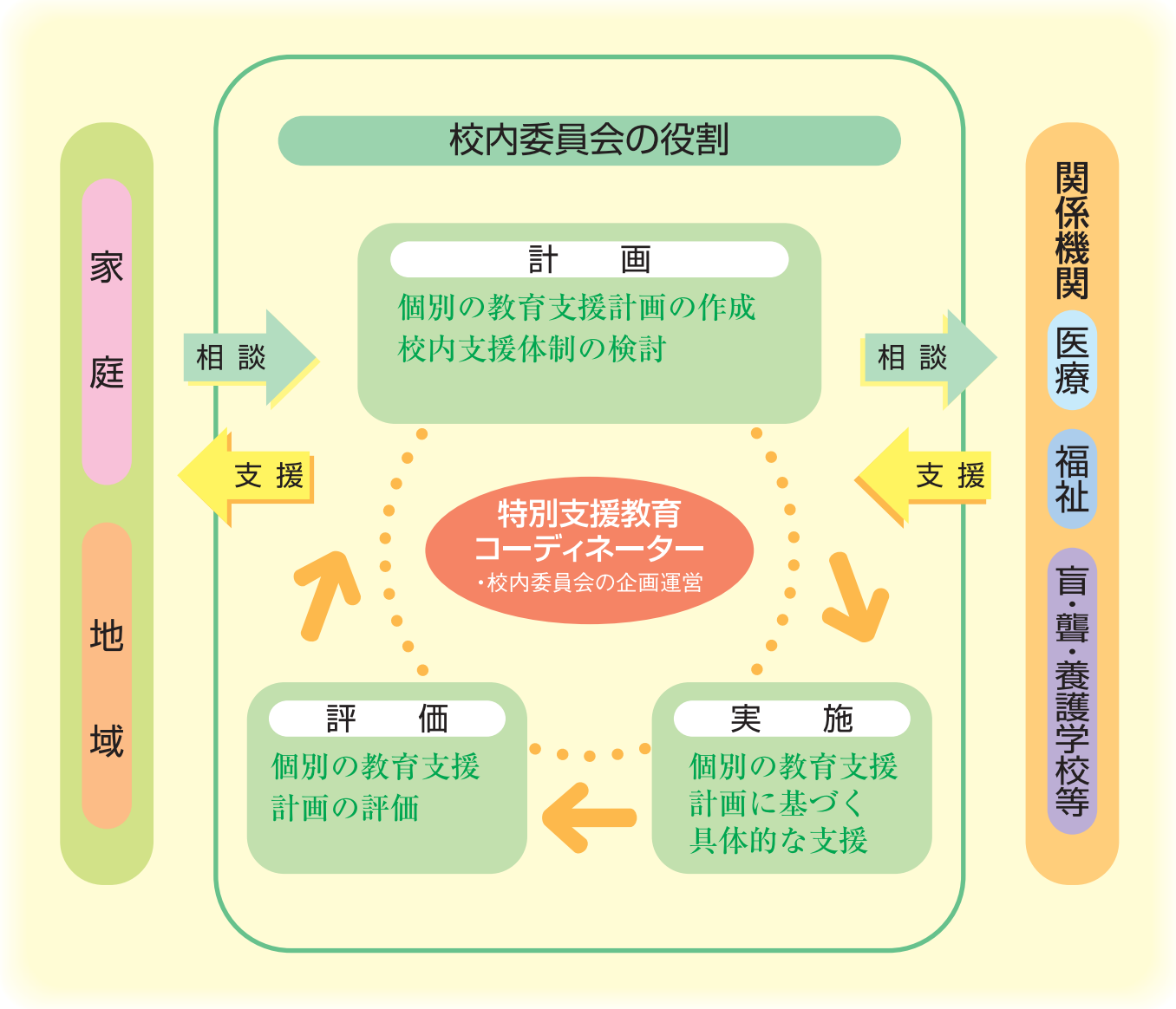
# 二次的障害を起こさないために

大人からのしっせきや注意を受けやすいLD、ADHD、高機能自閉症の子どもたちは、自信を失い、自己評価を下げてしまって、二次的に「無気力」「不登校」に陥る場合があります。それを防ぐためにも、温かい雰囲気のもとで子どもたちが自己肯定感を高められるような支援の工夫が求められます。

# 校内委員会の役割

特別な教育的支援を必要とする子どもには、教職員全体の特別支援教育に対する理解の下に、学校全体で支援をすることが大切です。

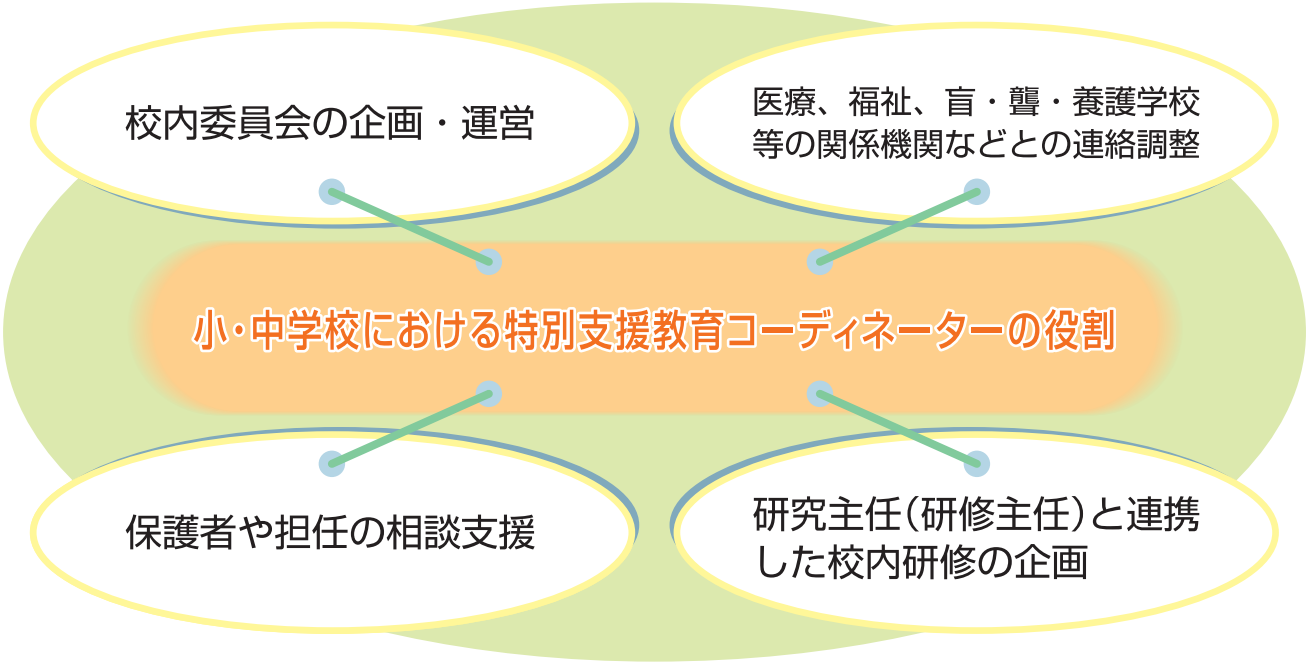
具体的には、学校内外の連絡調整をする特別支援教育コーディネーター（仮称）を置き、このコーディネーターが中心となって校内委員会を企画、運営し、次のような計画・実施・評価といったサイクルに基づいて校内委員会を中心とした校内支援体制を構築します。

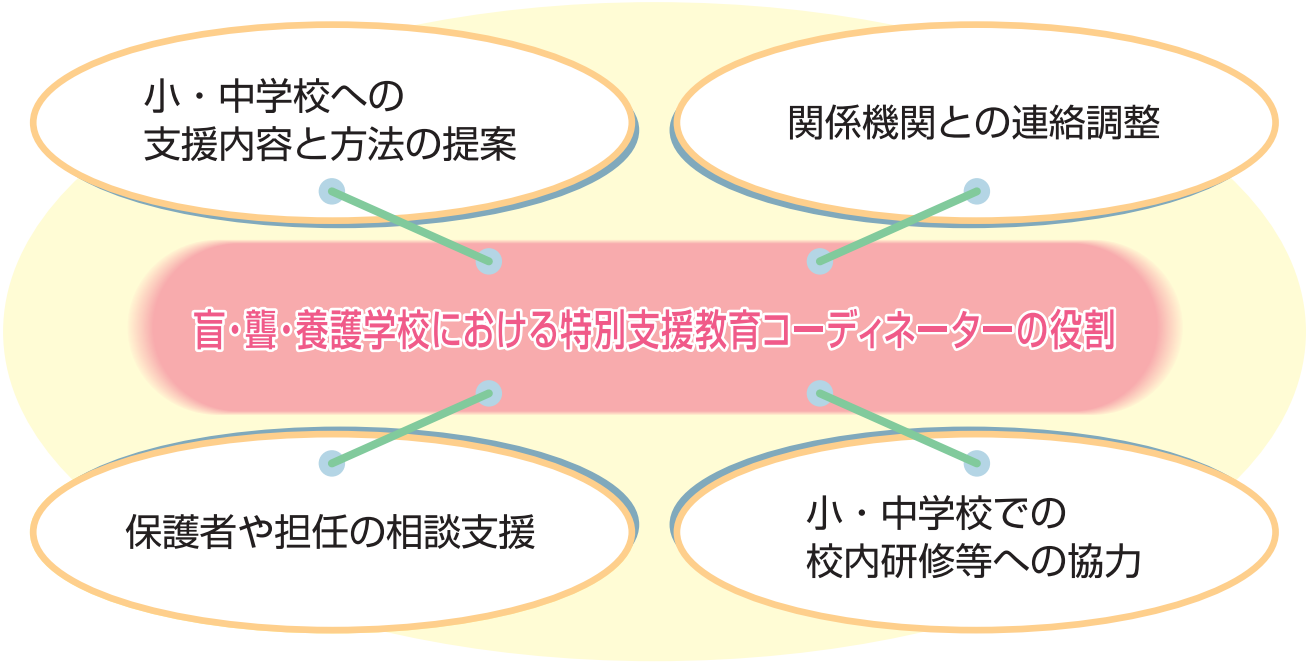


# 特別支援教育コーディネーターの役割

よりよい支援体制を構築するためには、学校内の支援体制だけでなく、学校外の関係機関との連携協力が不可欠です。そのために、学校外の医療、福祉、盲・聾・養護学校をはじめとする教育機関等の関係機関などとの連絡調整をする特別支援教育コーディネーターを置き、関係機関との連携協力を図ることが大切です。

また、盲・聾・養護学校においても、地域のセンター的機能を有する学校としての役割を踏まえ、関係機関との連絡調整を行う特別支援教育コーディネーターを置くことが必要です。



# 岡山県内の主な相談機関

| 相談機関 | 〒 | 所在地 | TEL |
|---|---|---|---|
| 岡山県教育センター | 703-8278 | 岡山市古京町2丁目2ー14 | (086)270-2335 |
| 岡山市教育相談室 | 700-0863 | 岡山市新道1番地 | (086)224-4133 |
| 倉敷教育センター | 712-8046 | 倉敷市福田町古新田940 | (086)454-0400 |
| 岡山県中央児童相談所<br>(岡山県福祉相談センター) | 700-0952 | 岡山市平田407 | (086)246-4152 |
| 岡山県倉敷児童相談所 | 710-0052 | 倉敷市美和1ー14ー31 | (086)421-0991 |
| 岡山県倉敷児童相談所<br>高梁分室阿新相談室<br>相談日／木・金<br>10:00～16:00 | 718-0011 | 新見市新見2056ー1 | (0867)72-1177 |
| 岡山県倉敷児童相談所<br>高梁分室<br>相談日／月・火<br>8:30～17:00 | 716-0062 | 高梁市落合町近似286ー1 | (0866)22-4111 |
| 岡山県津山児童相談所 | 708-0004 | 津山市山北288ー1 | (0868)23-5131 |
| 自閉症・発達障害支援センター | 703-8555 | 岡山市祇園地先 | (086)275-9277 |
| 社会福祉法人<br>旭川荘療育センター 児童院 | 703-8555 | 岡山市祇園地先 | (086)275-4057 |
| 岡山大学医学部附属病院 | 700-8558 | 岡山市鹿田町2ー5ー1 | (086)235-7372 |

＊それぞれの相談機関にはそれぞれ特徴があり、必要に応じて、より適切な相談機関へ紹介されることがあります。

《お問い合わせ先》
岡山県教育庁指導課障害児教育推進室
住所　〒700-8570　岡山市内山下2丁目4番6号
TEL　(086)226-7587
FAX　(086)224-3035
E-mail：shogaiji@pref.okayama.jp

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています